

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査 (最終)

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	服部 義弘			
講義コード	2332011010		講義名	英語音声学			
開講曜日	火曜日	7・8時限	専門科目				
授業回数	14回	休講回数	0回	補講回数	0回	受講登録者数	53人
成績評価に際し注意した事項							
<p>期末オーラルテスト (50%)、期末レポート (40%)、平常点・出欠点 (10%) により総合的に評価した。</p>							
報告内容							
<p>1. 授業評価アンケートの結果を見て 学生に公平に接していた、質問・相談に応じる姿勢があった、シラバスの内容が反映されていた、反応を確かめながら講義をしていた、の4点については高い満足度が得られた。これらの点については今後とも満足度が得られるよう努力したい。これに対し、授業の進度が適切である、授業の難易度は妥当である、板書が読みやすい、の3点については、学生が重要であると考えていながら、低い満足度しか得られなかった。授業の進度、難易度については十分配慮したつもりであったが、それでも不満に感ずる学生が若干いたということは認めざるを得ない。今後とも一層の配慮を心がけたい。板書が読みにくいのは従来より再三指摘される場所である。何とか工夫して読みやすい板書を心がけたい。</p>							
<p>2. 授業評価アンケートの記述内容に応じて よかった点として多くの受講者が挙げていたのが、受講生一人ひとりに当てて発音させたことであった。受講者数が多く、全員に当てるのは時間的に手間取るため、不評かとも案じられたが、結局は好評であったことは幸いであった。改善点としては、板書をノートにとる時間をもう少し取ってほしいかったという意見があった。時間配分を注意したい。</p>							
<p>3. 今後の授業改善の方針、抱負など 英語音声学の授業は理論面の教授ばかりでなく、実際に受講者に音声の産出・知覚の訓練を時間をかけて行うことが肝要かと思われる。この点についてはこれまでも十分留意してきたつもりであるが、今後とも継続的に心がけたいと思っている。</p>							
<p>4. よりよい授業をともにつくるために学生へ要望すること、など 英語の音声を習得するためには、授業内の練習だけでは到底足りず、受講生各自が授業外の時間にどれだけ練習量をこなすかにかかっている。母音・子音の発音に限らず、リズム、イントネーションなど音声の全般にわたって、自主的に努力して練習を積み重ねてほしい。</p>							
<p>5. 授業回数の確保について 今学期は1度の休講もなく、14回の講義を実施することができた。</p>							